

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 文化財課

会議の名称	令和7年度 第2回茅野市博物館協議会		
開催日時	令和8年2月17日（火）午前10時28分～午前11時53分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 実験工作室		
出席者	白鳥保美委員長、宮坂均委員、市川純章委員、小平正八委員、両角紀子委員、吉江利彦委員、平出信次委員、両角茂子委員、田中未知世委員、高木信委員、山田由岐子委員、矢崎進一委員 山田利幸教育長、小池岳史生涯学習部長、湯田坂幹雄文化財課長兼尖石縄文考古館長、山科哲同考古館係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香同博物館係長、鶴飼幸雄神長官守矢史料館長、柳川英司同担当		
欠席者	櫻井洋副委員長、守矢昌文考古館特別館長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
生涯学習部長	1 開会 皆さんおはようございます。 お集まりいただきありがとうございます。 それでは、これより令和7年度第2回茅野博物館協議会を始めます。 よろしく願いいたします。		
教育長	2 教育長あいさつ ご多用中のところ、お集まりいただきありがとうございます。 第1回目の協議会で、3館の活動をより活性化させる、そしてまちづくりの方向に向かっていくということ、皆さんからご意見をいただきました。そんな中で、今年度3館ともそれなりに全力を尽くして、やってきました。主なところを申し上げます、例えば尖石縄文考古館、仮面の女神発見30周年ということで、今年1月にシンポジウムを行いました。 全国各地から8名の気鋭の学者の方がお見えになって、土偶はなぜできたか、土偶はどうしてつくられたか、そういう議論をしました。その様子を紹介したいと思いますが、ある先生は、いわゆる信仰のような心の拠り所の対象じゃないかと。またある先生は、土偶に厄払いの役があった。それから、ある先生は、女性と、子どもが新たに生まれてくる妊娠への畏敬の念があった。それからまたある先生は、自分の恋人に対する思いが土偶に託したメッセージであった。そんな話がありました。8人の先生方が喧々諤々で、あの温厚な先生方があんな怖い顔をするのかというくらい意見が出ました。そんな中で、豊平小学校の6年生の子どもが調べる学習でやはり同じように、土偶はどうして…というテーマで調べる学習をしました。その		

子は、土偶は今でいうお地藏様。という考えでした。いわゆる信仰の対象。だけど、その子のお母さんは、お雛様と考えました。なんでお雛様かという  
と、送り雛。

厄を流すということで、また、親子で喧々諤々の対立があつて、調べる学習  
のその子の結論は、よくわからなかった。でも、やっぱり縄文の人たちにと  
って、土偶はとても大切なものだったと。そんな結論でした。子どもの研究  
と 8 人の先生方の話を聞いて、いやあ、レベルそんなに変わらないじゃん  
って思いました。余計なことながら、8 人の先生方に、この子、来年中学 1  
年生に入学するけど、私たちはもうこれ以上できないから、弟子入りさせ  
てくださいと言ったら、笑っていました。いずれにしても 30 周年というこ  
と、今日の資料の中にもありますが考古館の、学校へのいわゆる出前講座。  
その中でこんなのが生まれてきました。やはり私たちが目指してるのは、  
尖石縄文考古館が、縄文の学術的なセンターであり、総本山になってほし  
い。その中で地道だけでもゆっくり、さらに発展して行ってほしいと思  
っています。

それから総合博物館の方。数々の、よくここまで入れるかという講座を行  
っています。その中でも今年度新たに行ったことが、民間企業との連携と  
いうことで、セイコーエプソンの方々がいらっしゃって、夏の親子工作教  
室を、3 回行いました。このように今までの博物館活動プラス、新たな動き  
が始まっています。また市民研究員の方々も、3 月 14 日に活動の発表しま  
すまた、今年度、生き生きとした姿を見せてくださるのではないかと思っ  
て楽しみにしています。

それから、史料館になりますが、今年度も、相変わらずといたしますか、1 万  
3000 人の入館者。こここのところ、数年間で、1 万人以上の入館者を獲得し  
ています。その中で 1 つ。今までもっと大切にしなきゃいけなかったこと  
ですが、古文書の解読会、3 つですが、約 100 名以上の方々今年度参加  
しています。そうした中で今年武田信玄の、文書展示を行ったということ  
もありますが、来年度は、より一層、古文書の研究に力を入れていくと同時  
に、当初の計画通り、西山一帯を諏訪大社含めて、あのゾーンを、大きな学  
術センター化していく第一歩を踏み出していく、そんな風に考えています。  
また、この後の発表で様々なご意見をいただき、その他の所では、お配りし  
た資料にありますように、市の行財政審議会から、総合博物館の在り方  
についての答申がございました。

また後程説明いたしますが、この点についても、ご意見よろしく願いま  
す。どうぞ今日はよろしく願います。

### 3 協議事項

#### (1) 審議会等の会議の公開について

協議に先立ち、協議会の公開について事務局から説明。

～資料 1、資料 2 の説明～

本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基  
準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、  
委員名を表示せずにホームページで公開します。

(承認)

委員

了承される。

(2) 各館 令和7年度事業報告について

資料に基づき、年間事業報告について事務局から説明を行う。

- ・尖石縄文考古館（考古館長）
- ・八ヶ岳総合博物館（博物館館長）
- ・神長官守矢史料館（史料館館長）

(3) その他

資料に基づき、茅野市行財政審議会が令和8年1月に提出した行財政改革に関する提言書の総合博物館部分について文化財課長が説明を行う。

(自己紹介) 委員は長くやっています。他に社会教育委員や茅野市の総合計画の委員を務めています。茅野市に来て20年以上暮らしています。

そんな観点で、改めて、博物館の事業は、僕なりに見えてきたところがあるかなと思うので、それを交えてお話をします。

資料を見させていただきまして、いつも以上に、事業の量が増えていて本当にびっくりする一方でございます。本当ありがとうございます。

一方で、博物館とは何かというところの根本が崩れていかないだろうかというのが懸念になります。

資料を見ると、全部やったことやイベントの羅列になっているという面があります。博物館というのは、歴史とか、そういったものを記録して、後世に繋いでいくというミッションがあるはずで、この地域の歴史文化は、よその地域の人は絶対興味を持っていない。偶然持っただけならば、関心対象かもしれませんが、それを集めたり、保存したり、或いはそれを深めていく、研究をしたりっていうテーマはできません。

またそれは、市場性のあるもの、つまり、お金が儲かるかっていう話とは違うので、やっぱり公でやっていかなければ成り立たない。

そんな中で、今日の活動報告とか、近年見ていると思うのは、やっぱり博物館活動の役割は、過去を学ぶための、人類の資料なのかなと思います。

茅野市であれば、どんなことをしていくか、その未来の選択を今いる人たちができるような資料を残していくということなのではないかなと。

そうしたことをどれだけ意識しているかを見たときに、その活動にはテーマが見えないなと思いました。

まさに重要な存在意義としてのテーマが、目先の市民に繋がることをやろうとしたことによってそこが希薄な、多分やっていると思うのですが結局報告に上がってきていない。

だから大事なことを見失っているんじゃないかという気がしました。

例えば、考古館の方で言えば、これこそが報告に上がるんじゃないのと思ったのは、「私たちはこんな研究をしています」というイベントをやりましたと書いてあるんですけども、どんな研究しているのかというのがここを見ても出てこない。

でもそれこそが報告すべき内容であったりするのではないかという気もします。

それから、或いはその館内をめぐる対応したというふうなイベントが書い

であったんですけども、見せたという事実はわかりますけれども、どういうメッセージを伝えるような展示を見せたかという観点では、今年、今まで継続的にやっていることは、こういうテーマの展示をしていますというふうなことを継続的でも載せないで、今何をテーマでどんな展示をしているんだらうかって、検証できないような状態になっている。

それは八ヶ岳総合博物館も同じで、今どんな展示で何を見せようとしているのかっていうこと自体が継続していて変化がないと職員側から変化がないことだと思いかもかもしれませんが、我々市民側から、こういった会議であれば、いつも新しい人も来るし、常に説明していかなくちゃいけない、こういうテーマで展示を行っています、展示だけじゃなくてこういうテーマの活動があります。今年は展示をやりました。ていうのがあっていいんじゃないかなと思います。

目先の市民との接点はものすごく対応があることがわかったんですけども、もっとしなくちゃいけなかったことの記録が、この報告から消えちゃっているような気がしました。

例えば、この八ヶ岳総合博物館の記録ですから新たに記録に追加したものは何かみたいなもの。とか、それが欠けているのかなと思います。

あとは八ヶ岳総合博物館なんだらうなと思ったのは、行財政とも近い話になってきますが、例えば、小学校は、ものすごい歴史を持っていて統廃合して、小学校ができていて、それは昔の町なんですよ。旧町村と言われてるように。そういった町の歴史をこの茅野市が刻んできて今がある。小学校にも歴史がある。だけどそれは小学校行って年表を眺めないと実はわからなかったりする。

でもそれでも、パッと見ただけだとわからない。でも、この地域の人がどうやって人々がここ協力して作ってきたかなっていう歴史はやっぱり博物館として、収蔵していていい話になるんじゃないか。

そうすると未来を決断するときに、その歴史を軽んじていいんだらうかというときに振り返る資料ってどこにあるのかな。博物館になかったらどこにあるんだらう。確かに1つは図書館である可能性ありますが、図書館の資料の持ち方と、多分博物館の資料の持ち方はちょっと違うんじゃないかと思います。特に、行財政と関わっていると思っているのは、日本、世界中もそうなんですけども、その人口減少という大きな価値観の転換の中で、暮らしを変えていかなくちゃいけないというときに、自分たちが、過去の人たちがどうやってこの地域の特性を考えながら、暮らしを良くするように協力してきたのかっていう歴史がその文化の中に入っていると思うんですよ。

それをこれからやっていくときに、どうしていくのがいいんだらうかっていう時にやっぱり過去から学ぶってあるんじゃないか、そういった資料で博物館になるといいんじゃないかなという感じがしました。

この行財政の意見を見ると、学習施設ということでのアウトプットの機会だけで見られてしまうところかな。

だけどそこは見えるけど、そもそもの方向性を、ということでスポットの市民が知らないところをちゃんとしっかりしていかないと、これは目先の体験をくださいじゃなくてちゃんと繋いでいかなくちゃいけない価値なんだ

	<p>ろう。そこをしっかりと一言もないといけないんじゃないか。それが欠けていると、お金だけだったら、赤字なので、なくてもいいんじゃないんですかと見られてしまう。</p> <p>でもこれがなくなったら、何もわからない茅野市になる。</p> <p>僕らは何をしてきたのかがどこにも残らなくて、お年寄りの記憶の中にもほのかに残るものになってしまう可能性があるんですね。</p> <p>そうならないために博物館というところはまさに地域の博物館でその地域の歴史とか、どうやって意思決定したのか、我々協力し合って暮らしを作ってきたよね、みたいなそんな歴史が残って欲しいなと思います。</p> <p>博物館、暮らしぶりとか、特に近代の変化とかあって欲しい。そんなふうに思います。</p> <p>それが博物館の中でテーマから、落ちているかなと。報告から見ると、やっているんでしょけども、イベント運営にとらわれていないかなという印象を持ちました。</p>
委員長	<p>いろんな視点から今ご指摘いただきました。</p>
博物館長	<p>館長、いろいろ工夫されて1年間やってこられたと思うのでここに書かれてないようなことで、もしお話があらわれるようでしたらお願いします。</p> <p>委員がおっしゃったように、イベントに、動かされているのではないかっていうところは言われてみればそうなのかもしれないんですけども、この自然とかそういったものを大事にするっていうようなことで、今やっていることはどんなものがあるか、2000年代の、諏訪にはどんな種のものがあるかっていうことを今調べて、収蔵をしているっていうことを中心にやっていますし、この星空が見える、茅野市の星空の紹介というようなことで、いろんなところで出かけて、そのことを伝えている博物館でやりたいなというふうに思っております。</p> <p>或いは、先人たちの生き方を収録した語り伝承っていうやつで、忘れられそうになっている人々の働きっていうことを残そうとしてやっております。</p> <p>そういったことも、続けていくことが大事だっていうことを応援してくださっているんじゃないかなというふうに思っていますので、今後さらに続けていければというふうに考えております。</p>
委員	<p>まず今、アンケートの話ありましたけど、一般市民としてアンケートがきました。</p> <p>私も何書いたか覚えていませんけど、あれは確か財政上のものだと思うんですね。</p> <p>ですから今の委員のお話じゃないけれども、博物館はなにをするところなんですかっていう発信ができていない。基本的に。市民が知らなすぎる。</p> <p>ということは、ちゃんとそれお話しなければこういう結果になっちゃいます。お金だけの話しをたらそうなります。当たり前のことですけども。ですからこれをスケート場が存続どうのこうのって、アンケート。でもアンケートするだけでも私茅野市は立派だなと思ってるぐらいですけども、前だったら言えなかったかな。</p> <p>ですからその辺はアンケートもそうですけども、それに対して実はこうなんですよっていうことを、博物館はちゃんとやんなきゃ駄目じゃないのか</p>

	<p>というのが1つの感覚です。それからもう1つ初めてというか、私はもともと尖石縄文考古館の活動がメインなんですけど、今年初めて協議会委員になったときに、他の博物館だとか、神長官とか、どのぐらい行っているかという、ほとんど行ってないです。</p> <p>博物館は、委員になる前に数回来ました。</p> <p>神長官は確か1回だけです。それなのに協議会に入っちゃってるのに、今の話じゃないけど、行く機会もなかなかない。</p> <p>でも行きたいと思いながら、お願いというか、どこかに書いてありましたけど、ここの市の人たちではないメンバーになってる人間に、3館共通券とかそういうのを配って、行ってくださいとか、やらないんでしょうか。</p> <p>私はそういう、市民市政運営やった方がいいと思っているんです。</p> <p>人数の話になりましたので、資料の中で尖石縄文考古館の観覧者人数集計がありますが、今初めて見ても何のことかわからないんです。</p> <p>何で1000万なんて数字が出てくるのか。文字が小さいので、私の目で見えないんです。1000万人の人が来るわけないんで、何でこんな結果が多いのかな。</p>
<p>生涯学習部長 委員 委員長</p>	<p>入館料です。</p> <p>もうちょっと見やすい資料をお願いしたいなど。</p> <p>人数をきちんとお伝えしていただければいいんですが、どこ見ればいいのか教えてください。</p>
<p>考古館係長</p>	<p>(入館者数と観覧料を合わせた表の説明) クーポン券とかの契約してるので観覧料が細分されていて表が細かくならざるをえないんですけれども、これから月ごととか、色を変えるなりして、見やすいように、作りますが、字のサイズはこれが限界かもしれないですけど、努力しないとイケないと思います。</p>
<p>博物館係長 委員</p>	<p>博物館は入館者数のみで入館料の記載はありません。</p> <p>入った人数だけを示させていただいております。</p> <p>尖石の方も人数表って書いてあったんで、金額が出てくるとびっくりするんです。だったら博物館も入館料と入館者数の両方を書いていないとおかしい話だし。表を統一したらいかがですか3館で。</p>
<p>史料館担当 委員長</p>	<p>守矢史料館ですが、尖石と一緒にです。表を見やすくする方法としては1月26日現在までの、入館者数と入館料を別に大きく書くっていうのが一番だと思います。</p> <p>数字はそういうことであります。先ほど委員が言われた中にもありましたが、数字の他に皆さんで検討していくことがあるんじゃないかなと思います。どうでしょう。財政的な視点から、指摘されているところは、否定はできない部分かなと思いますが、それより、茅野市の中で生かされてきている部分が博物館含めて3館にあるのではないかなと思います。そんな観点でご意見をいただけるとありがたいです。</p>
<p>委員</p>	<p>その視点で活動を見たときに、縄文っていうのはすごい大昔になるので直近の私たちの暮らしとしてはちょっと遠いかな。だから博物館とは分かれているのかなと思いました。守矢史料館はどうとらえるか。これを引き受けることになった歴史からすると、博物館として生まれたというよりは、残しましようということ、引き受けたという形なのかなと。</p>

史料館長

そういう意味では新しく収蔵されるものが増えるということは多分ないんだらうなどは思います。

なので、これを維持していくことをどう見るのかってなると、腹くくって、観光収入でやってこうって、入館料 1000 円でも入ってくれるような企画を常に考え続けるとかって割り切っちゃってもいいのかなと。

諏訪文化に近いものになるから、茅野市の歴史というよりかちょっとレンジがおっきいのかなとか、なんかそんなふうに割り切っちゃうことができるのかなと思いますけども、史料館を、茅野市で引き受けるといったときの、何か考え方っていうのはあるんですか。これを茅野市民の財政の支援を受けながら維持していくときの何か言い訳的なところですね。

私当時の担当をやったことから、お話をすると要するにその建設になった経緯ですよ。

これは、守矢家、今の当主の方 78 代という非常に長い歴史があるお宅で、諏訪神社の筆頭神官を務めてきたお宅です。

そこに保存されて守矢家で保有してきた古文書が相当量ありました。

当時、1637 点ぐらいあった史料のうちの 155 点が、昭和 41 年に長野県宝に指定をされたという経過があります。

諏訪地方では当然大事な古文書ということが認識をされておりましたし、県全体から言っても大事な古文書だという認識が皆さんにあったわけです。ところがその時代、平成 3 年ちょっと前ぐらいに、この古文書が諏訪から流出をすると困るっていう危惧を、郷土史の先生方が持たれたっていう経緯があります。

何とかこれを流出せずに、諏訪に留めておきたいというふうな希望があって、それを茅野市が判断をして、史料館を建築してですね、永久的に収蔵していくということで、寄託を守矢家から受けて、史料館で保存をして、管理をしていくっていうことになりました。

史料館そのものについては直接の経過はそういうことだったかというふうに思いますけれども、守矢家の歴史についてはもっと長い経過があって、守矢家も含めて諏訪神社全体を、国が、諏訪信仰史跡とって、史跡指定をして、保存を図ってこうというふうな動きが、それ以前からずっとありました。

諏訪神社全体、諏訪神社関係の高部地区で言えば、守矢家も含めて、高部の谷全体。それから神宮寺一帯、酒室社、前宮一帯、原村茅野富士見に関係ある御射山社一帯、それから上社の関係です。下社もかなり広い。これを国が全部一括をして保存を図っていきたいということがあったんです。こうした話とも関わるなかで史料の保存というふうな計画があって、とりあえず史料館を建築して、保存を図ってきたというふうな歴史があります。

そういう背景がありますので、ここの守矢史料館の業務の状況にも書いてありますけども、市としては、あそこ一帯を、諏訪神社信仰という中に位置付けて、史料を保存するっていうだけでなく、守矢家の土地も含めて、諏訪神社の信仰に関する中心的な研究センターとして位置付けていきたいというふうな思いでいるわけです。

一部史跡公園化も含めて進めてきた経過があります。

それはその後位置付けの中で起こってきた状況であります、守矢史料そ

委員	<p>のものに限って言えば、今お話したような流出というふうなことを心配されて保存を地元で図っていきたいということで史料館があります。</p>
史料館担当	<p>守矢史料館は、平成3年頃できたように記憶してるんですけども、その二、三年前平成元年に私は高部区の区長をしていました。そのときに、やはり守矢家の史料が千葉の佐倉の博物館へ移されるというような、事実はどうだったかわかりませんが、話がありまして、地元としては、ぜひ守矢家の史料は地元に残して欲しいというような機運がありまして、それから数年後に史料館が完成したというようなことで、ちょっと蛇足のような話になりますけれども、地元としても、ぜひ、とどめて欲しいという要望があったというのも史料館ができるきっかけだったのかなと思っています。</p>
生涯学習部長	<p>守矢史料館の運営についてですが、私は、平成8年から担当になりましてずっと守矢家の企画展等、史料の解説とかも、今現在進行形で行ってるわけですが、どちらかというと入館者が市外の人が多いもんですから、やっぱりそちらの方をメインに考えてやっていたわけですが、地元の人でも興味ある人がたくさんいるので、その人たちも結構聞きに来たりして、そちらの対応をしたりしています。</p> <p>ただ建物も含めて、県外の方の関心が高いもんですからそちらの方に、向けて企画展なども開催しております。</p> <p>委員から非常に貴重なご意見をいただき、また委員さんからも、確かにそうだなというご意見いただきました。</p> <p>私もこういう立場になって、行財政審議会も出ていまして、やっぱりお金がないと、まず施設維持できないだろうってところが根底にどうしてもあるので、そういう話されると、お金稼がなきゃいけない、どうやって人を集めるかっていう方向に、どうしても気持ちがいってしまいます。そこはもう仕方がないかなと思っています。私は、4月に生涯学習部の職員全員集めて、お話をしています。これはそれぞれの部でやっています。</p> <p>その時に私が一番伝えたかったのは、それぞれ、尖石だったら縄文を扱っている、博物館だったらこの八ヶ岳の成り立ちでそこに暮らした人たちの生きざま、そういう実際のモノを展示している。史料館だったら鎌倉以降の、すごく重要な文書を、人間が記録した文字資料を扱ってるということで、それぞれ施設の特徴というか、果たさなきゃいけない役割があると思います。</p> <p>それを、それぞれの施設に、事業を展開している職員の皆さんが、施設がなぜできたのか、それをこれから守っていくには、そこに人がかかわっていかないといけないわけです。そののところにしっかりと向き合っていただけないかというお話をしました。</p> <p>まずは職員が、同じ方向を向いて、仕事をしていくことが大事だと思っています。</p> <p>もう1つは、職員が幾ら頑張っても、市民の皆さんにそれが伝わらなければ、何もならないし、アンケートをとると、「あそこ何やってるかわかんない」とか、「もう多額のお金突っ込んでるけれども、なかなか見えない」というふうに言われてしまうので、いかに私たちがやっていることを市民の皆さんに理解をしていただくかというところを、これからしっかり向き合って突き詰めていかなきゃ施設は、お金だけで言われちゃうと、廃止の</p>

委員長

方向しかないんです。

だからといって、「いやお金ないからやめます」と当然言えません。委員おっしゃられたように、温故知新って言葉もありますけれども、やっぱり古きをたずねて新しきを知るといことじゃないかなと思ってるので、いかにその施設の果たす役割をしっかりとお伝えをできるか、職員もそれを共通認識を持って、役所と市民が一緒になって、その施設のあり方だとか、そのものをどうやったら残せるかで、保存の先にやっぱり私は活用があるんだと思ってますが、まず残す。残すには、職員市民の理解がえられなければいけないので、そのために、効果的な事業を、地味でもいいので、地道に続けることしかないかなっていうふうに今思ってます。

やっぱり市民が知るすべっていうことを考えると、いろんな発信方法もあると思います。今日、学校で6年生35人学級の授業が終わったあとに、新聞をとっている人どのぐらいいるかと聞いてみたら、35人のうち7人なんです。5分の1しか新聞を取ってない。

じゃあ、いろいろな情報をどうやって取っているのって聞いたら、「お父さんお母さんは、スマホを見てる」って言っていました。私は、博物館事業に関わっているの、市でやっていることは「広報ちの」を見て、情報を得ているんですが、市民はどうやって、博物館に限らず市の情報を得るのかなと思っています。そこで博物館関係の現状や情報をどう発信していくのが効果的なのかなあと思いました。

ちょっと話は飛びますけども、高市さんが選挙の時に SNS が今回効果的に役割を果たしたってということもあるわけで、そんなような時代の中でうまく博物館情報に関わる部分が、アピールできればいいのかなあと思っています。私は博物館は、とても大事な施設じゃないかなと思っています。尖石縄文考古館もそうだし、守矢史料館もそうですし、これを安直にお金でセレクトってというのは、短絡的なじゃないかなと思っています。やはり市民にも3館の果たしている役割を理解していただくような、維持発展していけるようなことを考えていただければいいんじゃないかと思っています。

委員

委員がおっしゃられる、どういう経緯とかは大事なことだなと私も感じます。

この博物館が、何を見せようとしているのか、なぜ必要な施設なのかっていうことを、しっかり議論していかなきゃいけないのかなあと思うわけです。若い職員が、いろんな研究をして、それを市民に発表するっていう機会はとても大事なことじゃないのかなあと思うんです。

職員を育てる意味でもありますし、またその職員の研究しているものを、みんなに知っていただくことは、この茅野市の誇りになってくるのかなあと感じるわけです。

ただこの総合博物館は、花になるものはないんだろうなあとということを感じるんです。

尖石には国宝がある。神長官には上社と下社の間にあって、1つの信仰としての、興味を持たれた方たちが、寄っていただけるとい、いい立地条件をしているんですけども、博物館というところに、興味を持たせる、花、テーマというものがなかなか伝わりづらいなんてことを感じているんです。

委員

今一生懸命講座はたくさん行われています。その中でも天文っていう部分に、かなり力を入れて展開をしてきてる部分があるわけなんです。お金はないんですけども、例えば、宇宙から落ちてきた石をどこから借りてきて、博物館に展示をする、そのような企画展があったりとか、大きく言えば、月の石が飾られていれば、みんな興味を持ってここに足を運ぶだろうとか、そんなようなことを考えます。それが不可能的な部分があるんですけども、ただ隕石だとかそういったものをどこから借りてきて、そこから、宇宙というものに話をつなげていく、そのような企画展があったりだとか、そういうような夢のあるような部分が、博物館の中からまた発信ができる面白いのかなと思います。

委員がいわゆる歴史だとか文化っていうものを残すために、この博物館があるんですよっていうのも1つの側面かもしれませんが、これからは、子どもたちが何か夢を持ってここに足を運ぶ、そんなようなものがないと、博物館の魅力っていうのは出てこないのかなと思うんです。簡単に言うと、折り紙でも、土の団子でもいいんです。

何かそんなものをここで伝えていって、来た人に楽しんでもらう、そんな場面があってもいいんじゃないかなと思いながら、この博物館をどう残していくかっていうのを、みんなで一生懸命考えて行く中で、お金では買えないもの、そんなものをここで育ててるんだよっていうことを、ぜひ知っていただく、そんな機会をたくさん作ってもらえれば嬉しいなと思います。お金の話が出てくるときに考えるのですが、ちょっと想像できないんですが、頑張ったとして、収益事業ってどのくらいお金上がると思いますかって考えたときに、たかが知れてるんじゃないかなと思ってるんです。だからこそその意味での収益性って多分追求することのエネルギーがむしろ逆方向かもしれないので、今のような、この場所を使ってどう活用できるかっていうことなんですよ。

だけど本来のミッションがわからなくなるようなところになっていってはいけないから。でもそこのポイントは市民研究員だとか、市民のボランティアスタッフであるとかっていう市民力なんだろうなという感じはしています。

なので、だからこそ、1つの考え方として、例えば今ここに挙がっている事業報告書。お金幾らかかっていますか、職員、人工というか、人パワーはどれくらいですか、市民人パワーはどれくらいですかって言ったときに、意外と職員のパワーかかってなくてお金かかってなくてできてる事業じゃんっていうのも、1つは目安だと思うんですよ。

でもだからこそ、職員とかが公的で支えないとできないところこそ支えるところみたいな。明らかにすることによってカットされちゃうやぶ蛇が起るかもしれませんが、少ないパワーでどれだけ最大効果を上げるかっていうふうな見方も、財政とかの見方になるのではないかと思います。

何でもいから人が集まるようなことってやると本当何のためにいたのかって逆にわからなくなって、足元すくわれるじゃないかとおもいます。

例えば観光。茅野観光まちづくり。あそこは観光ですから収益事業をやっているところなので、あそこと協力するって言ったときには、がつつりお金を取るような協力をするくらいでいいんじゃないか。つまり、向こうは

委員	<p>収益性を求めてやっている活動でこっちは、公益のために、維持したいので赤にならないような取り組みをしたいみたいな。そういう意味では考古館であるとか守矢史料館っていうのは、多くの人があるのであれば、むしろ外の人には 2000 円ですと、でも来てくれるぐらいの、勝負をしていいんじゃないかなと。ただその分市民はですね、無料で、どこか、引っ越して来た人は 1 年間いつでも行ってくださいとか、なんかそんなようなぐらいの還元は、過去に言ったこともありますけども、その時に、来て、「だから？」って言われないようなものがないと。</p> <p>博物館に来ると、「なるほど茅野市はこういう自然と文化の中で発展してきたところなんだ。へー。」「坂本養川せぎってそういうことね」ってそういうことに何か納得するような、そんな資料が残っているっていうのが、小学生を招いても効果的だし、新しく来た人にも効果的。観光客からすると、ちょっとテーマ外れてもいいと思いました。</p> <p>3 館共通券は、3 館一緒にと考えてこうなってるんですけど、実際問題、尖石と神長官なんか関係があるのって言われると、なかなか難しいんですよ。遺跡に興味がある人が、神社の方の歴史に興味があるかっていうと全然違う方向なんですよ。</p> <p>これ 3 館みてくださいって言うても、興味ある人はなかなか、その 3 つを 1 つの博物館としてとらえるのはとても難しいのかなって考えるんです。</p> <p>3 館まわってくれている方もいますけれども、私が例えば尖石考古館に行きたいって行って、じゃあ守矢史料館行くかといえば、そういう興味はないので、ちょっと難しいのかなと思います。3 館共通券っていうのも 1 つの知ってもらふ機会にするには、とてもいいアイデアだと思うんです。</p> <p>ただもう 1 つ私は思うんですけども、これは市を跨いで考えるってことはできないのかなっていうのを考えちゃうんです。</p> <p>例えば諏訪には諏訪の博物館がありますし、井戸尻遺跡もあるんですけども、尖石考古館に行った人は必ず井戸尻遺跡に興味を持って、そういう繋がりがあると思う。</p> <p>諏訪の博物館に来た人はついでに、神長官も見ていきたいという形で来る方も多いです。</p> <p>ですから、そういう共通点というか、お互いが補佐し合うというようなことを、市を越えて考える機会があれば、ぜひそのようなところもまた考えていただければ面白いかなと思います。</p>
委員	<p>お話をしてみました。</p> <p>博物館の連携はやっていますよね。最近はどうなテーマでやってるんですか。各市町村、そういう連携をしているのは聞いてはいるんですけども。尖石に関してですが、隣り合ってる市町村だけではないんですが、日本遺産の「星降る中部高地の縄文世界」といって、山梨県と長野県に跨っている 14 の施設があります。</p> <p>日本遺産の関係のある 14 のその施設の、土偶とか土器の御朱印というか、ゴム印なんですけれども、それをついて、周遊してもらおうというようなことはやっています。持っている人が入館料に関してインセンティブを受けられるとかそういうわけではないんですけども、そういうのが好きな方の射幸心に訴えるようなことでの連携、緩やかなものなんですけれども、そう</p>
考古館係長	

<p>委員</p>	<p>いうものはやっています。</p> <p>それから、八ヶ岳西麓地域共生会議の観光分科会の中で、茅野市と富士見町と原村の尖石と井戸尻とそれから八ヶ岳美術館をマップに入れたような、ロードマップというよりは、富士見町にはこういう特産物とか観光資源がありますよ。原村にはこういうものがあります、茅野市にはこういうものがありますという、プロモーション的なマップを作って、それぞれ周遊を促すというようなことを取り組みとして、やってみるかというお話を今してるところです。</p> <p>だから今、委員の方から出たような、効果的な取り組みかと言われると、そこはまだちょっとわからないんですけども、ちょっとずつではありますけれども、その隣接するところとの連携というのが、具体的な、手立ても含めて進んでるという状況かと思えます。</p> <p>僕が以前聞いたのは、例えば、縄文にしたって、各市町村が縄文縄文っていうぐらいだったらかぶるとか役割分担とかそういうこともあっていいんじゃないんですか広域で大きく博物館の。という意見を言ったときに、そういうようなことを話し合う会議はあるんですけど聞いてんですけど今はなくなっちゃっているんですか。</p>
<p>生涯学習部長</p>	<p>かなり前のお話ですか。</p> <p>縄文プロジェクトっていうのを大々的に打ち上げて、平成の26年から本格的に縄文プロジェクトをやったんですけども、その前後に、諏訪の中で、6市町村の縄文に関わる職員の連絡会議っていうものやっていたことはあります。</p>
<p>委員</p>	<p>今の公共施設の例であれば博物館とか図書館とか、そういったものって、広域で考えていくってやると持続的な充実っていうものもあるかもしれないですが、今まだそこまで至ってないということですか。</p>
<p>委員</p>	<p>はい、わかりました。</p> <p>私、新聞をとっていますが、自分が行ってる尖石の記事をそこで見つけていくときもあるぐらいです。</p> <p>茅野市のホームページが非常に見にくくて。申し訳ないんですけど。発信の仕方としては、若い方は、SNSをいっぱい使ってます。LINEぐらいは私も使えますけど、残りはほとんどやりませんが、そんな人間集めて会議しても、しょうがないですよ。年寄りだけでやってもお客は来ません。若い人たちがここに参加しないとうまくないというふうに。</p> <p>だから、各部署の方にも若い人たちいっぱいいますから、その人たちも聞けばやってくれますよ。</p> <p>実際自分も他の遺跡に行くときにそのホームページ見るよりも、YouTubeなんか素人さんいっぱい取ってくれてるんですよ。</p> <p>そっちの方が面白いです。</p> <p>いや、尖石遺跡もそういうやつがありまして、そこの方が面白いです。</p> <p>残念ながら。そういうことを利用するとか、若い人たちに相談するとか、各館の若い方にやっていただいた方がいいかなと思ってます。</p>
<p>委員長</p>	<p>時間が来てます。市民研究員の方も一生懸命取り組んでいらっしゃるので、博物館のイベントデーのチラシをSNSも含めて、この機会にもうちちょっと大きくアピールして情報発信していけば、情報発信力もアップするんじゃない</p>

委員  
委員長  
博物館長

ないかなと思います。

今言われるまでそのイベントを知りませんでした。

博物館に関わった方の発表がされています。

ありがとうございます。

このチラシはできたてのところですので、これから発信してるところです。これでまた見ていただいて、いろんなところでこう出してるんですけども、やっぱりね、1人の人が1人のお客様を連れてきてもらうとか一番効果的だというふうに思っていますので、先ほど話をしたり、お話にあったように若手の職員には、市の方でできる範囲のことはさせてもらっています。

あとは個人的なものっていうことになってきますので、そんなところも、これから含めて研究などをしていかなければいけないし、ぜひ皆さんにお願いしたいなというに思っています。

よろしくします。

#### 4 閉会

生涯学習部長

それでは皆様、本日貴重なご意見をいただきました。

ありがとうございました。

それぞれの施設に持ち帰ってですね、これから頑張ってやっていきたいと思えます。

本当に「まちづくりは人づくり」という言葉がありますけれども、私たちはそのまちを創る人を作っているところですので、そういった気概を持ってですね、これからもやっていきたいと思えますので、今後ともよろしくお願ひします。

これをもちまして、令和7年度第2回茅野市博物館協議会を閉じます。

どうもありがとうございました。

～午前11時53分 会議終了～